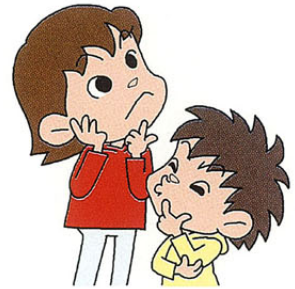


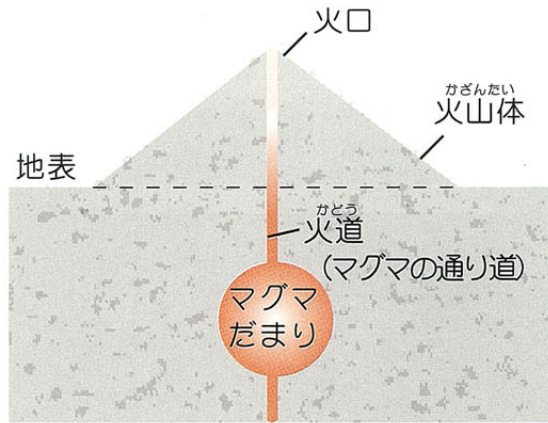
3. 鳥海山の成長の歴史

鳥海山は今から約50~70万年前に火山活動を開始し、何千回もの噴火をくり返して少しずつ成長してきた活火山です。

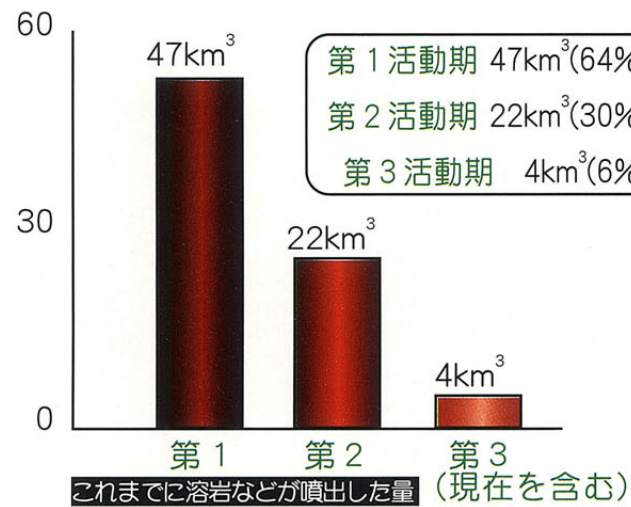


現在は、第3活動期と呼ばれる時期にあたり、数十~数百年に1回程度の割合で噴火をしています。

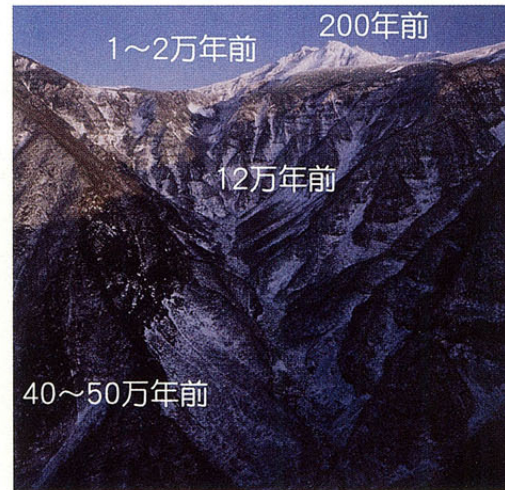
最も新しい噴火は1974年(昭和49年)の小規模な噴火です。



鳥海山は、マグマが地下から何千回もでてくることによって、大きく成長しました。マグマの温度は、1,000℃くらいと考えられています。

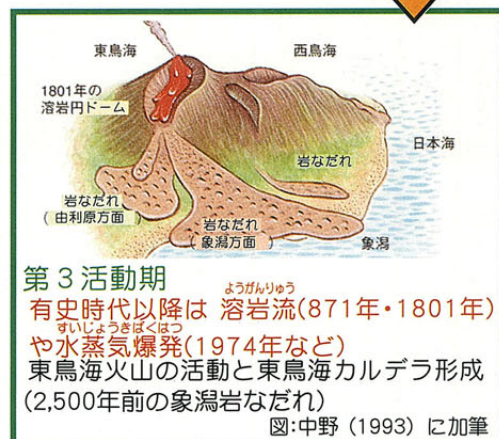
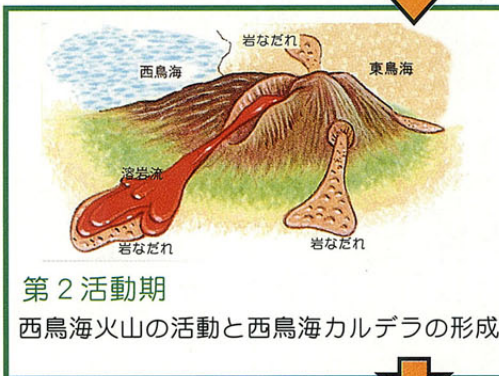


第3活動期における今日までの溶岩の噴出量は4km³ですが、今後も第1、第2活動期に匹敵する量の溶岩が噴出する可能性があります。



奈曾溪谷では、鳥海山の長い長い成長の歴史を一望することができます。(銚立駐車場より)

鳥海山のでき方(イメージ)



現在

主要な火山活動



三代実録(貞観十三年(871年)五月十六日条)に鳥海山の溶岩が流出したと考えられている記載が残されています。その記述は「山の上に火が上がり、土石が焼け雷のような音がした」「川が泥水であふれ、死んだ魚がたくさん浮いた」「大きな二つの蛇が流れ出て、小さい蛇がたくさん付き従った」といったものですが、この蛇は溶岩が流れた様子をたとえたものと考えられます。



1974年(昭和49年)の噴煙と小規模な火山泥流

1974年(昭和49年)3月1日に噴煙が確認されました。(約150年ぶりの噴火)
いくつかの火口からマグマ水蒸気爆発という噴火が約2ヶ月間くり返されました。
冬だったので、火山から出てきた熱い岩、石、灰が雪を解かして小規模な火山泥流が何回か発生しました。

みてみて!
今までに、こんなことがあったんだヨ



旧石器

縄文

2000年前

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

1000年前

鎌倉

南北朝

室町

安土桃山

江戸

明治

大正

昭和

現在

今から約2,500年前に、現在の山頂付近が大きく崩れました。この大きなへこんだ形は東鳥海馬蹄形カルデラと呼ばれています。
崩れた岩石や土砂は、高速で流れ、現在の「にかほ市」一帯に広く堆積しました。その体積は30~40億m³(東京ドーム約2,800杯分)と推定されています。
このような大規模な山くずれは、今後数万年は起こらないでしょう。



荒神ヶ岳付近の東西方向に延びる割れ目から噴火が起こりました。1801年7月には最も激しい噴火活動となりました。

このとき噴火の状況を見にいった11名のうち8名が噴石により命を落としています。7月4日に火山活動が再び激しくなり6日正午頃にやや大きな規模の噴火が起こり溶岩が噴出して新山が形成されました。

一週間後の7月15日に大雨のため白雪川で大規模な降灰後の土石流が起こり、途中であふれながら海に到達し約30haの田畑に被害を及ぼしたそうです。また、流れ込んだ土砂のために港が使用できなくなり、川の水が濁って飲み水として利用できないという被害も生じたといわれています。

詳しくは 秋田県・山形県のホームページで解説しています